

観光実態把握とマーケティングモデルケース造成事業

現状及び課題、解決策と目指す姿

令和4年度の実証事業では、福井県の来訪者に対してアンケート調査等を実施し、データの収集・分析を行った。これらのマーケティングデータは、福井県観光データ分析システム「FTAS」で公開するとともに、地域における実証事業に取り組むことで、「データの見える化」を実現した。

令和4年度の実証事業を通じて、地域におけるデータ活用を推進するためには、消費実態を把握するためのデータの不足、データ活用ができる人材不足という課題が認識された。

今年度の事業では、エリアPMSを構築し、消費実態を把握するためのデータ収集を行い、FTASにてデータを可視化する。地域におけるデータ活用を促進するために、FTASを活用し、複数のモデルケース造成と、地域におけるデジタルマーケティング人材の育成に取り組む。

観光事業者がより高度なマーケティング活動を行い、効果測定を繰り返しながら、「稼ぐ観光地づくり」を推進する。

事業概要

県内のエリア単位や業種別の事業者単位でFTASのデータを活用したマーケティング活動に取り組み、「観光地経営の高度化」「観光事業者の生産性向上」におけるモデルケースの造成を行う。モデルケース等を通じて地域のデータ活用促進を推進する。

目標

福井県内の観光施策立案に携わる行政職員および県内でモノ・サービスを提供する観光事業者等の観光プレイヤーが、データを活用した取り組みを通じて、売上の最大化やコスト削減を実現する。

実証内容

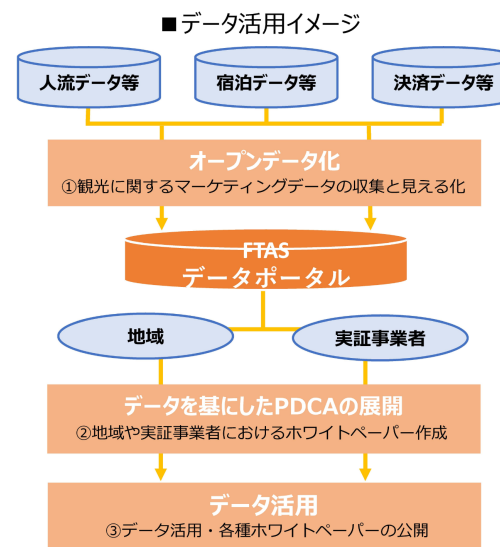
観光実態を把握する上で不足している宿泊等の消費実態に関するデータの収集
収集したデータの連携・分析による観光実態の可視化およびオープンデータ化
県内複数地域におけるデータを活用したマーケティング活動の
モデルケースの造成

目標値

KGI FTASユニークユーザー数：3,000人

KPI 新規オープンデータセット数：6個

ホワイトペーパー数：9個（地域:2テーマ+事業者:7テーマ）



取組エリア：福井県 コンソーシアム名：福井県観光DX推進マーケティングデータコンソーシアム（代表事業者：ふくいヒトモノデザイン株式会社）